

単元の目標
<p>知識及び技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報システムの開発を、実務に即して理解することができる。 ・情報システムの開発に関連する技術を身に付けることができる。
<p>思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業活動の改善に対する要求を分析することができる。 ・科学的な根拠に基づいて情報を処理する手順を見出すことができる。 ・情報システムを開発し、評価、改善することができる。
<p>学びに向かう力、人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報システムの開発について主体的に学ぶことができる。 ・ビジネスに関する情報を処理する適切な情報システムの開発に、主体的かつ協働的に取り組むことができる。

既習内容	生徒の実態と教師の願い
<p>(3年生1学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースの設計、作成、操作、手続きの自動化 <p>(3年生2学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェアの情報の収集、分析、手続きの自動化 	<p>(実態)</p> <p>表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアの実習において、作業として捉えており、関心をもって取り組んでいるとは言えない。また、自分で考えて何かを創り出すことを苦手としている。</p> <p>(教師の願い)</p> <p>この単元の内容であるシステム開発を、簡単なものでもよいので意欲的に取り組ませる。自分でシステムを考えさせることで、実務に即したシステム開発ができるようにさせたい。</p>

主体的・対話的で深い学びの視点に立った単元構想
<p>本単元では表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発に関する知識、技術などを基盤として、企業活動の改善に対する要求などに基づいた適切な情報システムの開発について、組織の一員として役割を果たすことができる力を育成することが目標である。現段階では、表作成やデータベース設計をするに当たって、ソフトウェアの特徴を理解して実習を行っているわけではない。そこで、ソフトウェアの特徴を正しく理解させ、システムを構築する際に、どのようなソフトウェアを利用して開発をしたらよいかを考えさせたい。</p> <p>また、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアをどのような場面で使うことが適切なのかを、自らソフトウェアの特徴を理解して説明できるようにさせたい。その上で、自分たちがシステムを開発するに当たって、利用者の立場、開発者の双方の立場を考えさせる。そして、いかに効率よく開発ができ、利用者も使いやすいものができるのかを考えさせることで、既習内容を理解していればシステム開発ができることに気付かせたい。</p> <p>【主体的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習内容を自分で振り返らせ、理解していることと理解していないことを見出し、再習得させる。(第1時) ・各グループのプレゼンテーションを聞くことで、学習内容を振り返らせ、ワークシートにまとめさせる。(第6時) <p>【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習内容の理解していない箇所に気付かせるために、グループワークを通して自分の考えを説明させる。(第1時) ・システム開発をするソフトウェアを決定するときに、ワークシートとグループワークを活用して話し合わせる。(第3時、第5時) <p>【深い学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの発表を聞きながら自分たちの考えにない部分を考えさせる。また、これまで学習してきたソフトウェアを考察する活動を設定する。(第6時)

単元計画						
段階	小単元の目標	時	本時の目標	学習活動	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の工夫	育成を目指す資質・能力や目指す生徒像
既習内容の振り返り	・表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの特徴を理解する。	1	・表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの特徴を考える。	・ソフトウェアの特徴についてワークシートに記入する。 ・グループをつくり、グループ内で考えた特徴を共有する。 ・次時で行う各グループの発表に向けて、考えをまとめる。	☞これまで学習した内容を自分で振り返らせる。 ☞グループで一人ずつ発表し、考えを共有させる。 ☞発表に向けて、各グループとしての考えをまとめさせる。	・ソフトウェアの特徴を考えることができる。
		2	・表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの特徴を正しく理解する。	・前時で話し合った内容を各グループ3分程度で発表する。 ・発表後に教師の解説を聞く。 ・解説後に再びグループで話し合い、どこが正しく、どこが間違っているかを確認する。		・グループの考えをきちんと伝えることができる。
課題解決	・システムを開発する。	3	・表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの違いを踏まえ、適切にソフトを選択する。	・前時までのソフトウェアの特徴を踏まえて、どちらのソフトウェアを使ってシステム開発をするか、グループで話し合う。	☞前時までと違うグループをつくり、新しいメンバーで話し合わせる。	・自分の考えを発言できる。
		4	・選択したソフトウェアについて、プロトタイプを考える。	・選択したソフトウェアを使ってグループでプロトタイプを作成する。 ・作成しづらい、若しくは操作しにくいようであれば、ソフトウェアの変更も視野に入れて、考え直す。		・ソフトウェアの機能として形にすることができる。 ・どのシステムを採用するかを考えることができる。 ・利用者の立場になってフルプルーフやユニバーサルデザインの視点を踏まえて考えることができる。
		5	・他人に伝わりやすいプレゼンテーションを考える。	・各グループの成果のプレゼンテーションができるように準備する。	☞プレゼンテーションの作成に当たり、自分たちのグループの意図が正しく伝わるように工夫させる。	・積極的に準備に関わっていくことができる。 ・よりよいものを作ろうと意欲をもって取り組むことができる。
振り返り・発展学習	・システム開発に必要な要素を考える。	6	・システム開発に必要な要素を考える。	・各グループ5分程度で開発するシステムについて発表する。 ・発表後、各個人でシステム開発全般について振り返る。 ・まとめの解説を聞く。	☞他のグループの発表を聞き自分たちの考えにない部分を考えさせる。 ☞感じたこと、気付いたことをまとめさせる。	・自分の考えをもって発表を聞くことができる。 ・既習内容でシステム開発ができることに気付くことができる。

